

凌雲の会 行政視察報告書

焼津市議会議長 鈴木 浩己 様

凌雲の会
(報告者：内田)

令和元年10月8日に、中部電力浜岡原子力発電所において、視察調査を行いましたので、その概要について次のとおり報告します。

[期間]

令和元年10月8日(火)

[参加者]

渋谷 英彦、村松 幸昌、石田 江利子、須崎 章、藁科 寧之、
河合 一也、増井 好典、安竹 克好、内田 修司

[視察場所]

中部電力(株) 浜岡原子力発電所(静岡県御前崎市)

1. 視察目的

浜岡原子力発電所の設備の概要を知るとともに、東日本大震災の経験を受けて、原子力規制委員会からの新規制基準適合に向けた作業の状況を視察する。

2. 視察内容

- (1) 原子力館内
全体模型(津波・地震対策等)→展望台→防波壁の全体模型
- (2) 概要説明(発電所内会議室)

- (3) 発電所周辺監視区域内
西側盛土→防波壁→強化扉（大物搬入口）→ガスタービン発電機→
原子力研修センター（浜岡5号機シュミレーター室、失敗に学ぶ回廊）→
緊急時対策所
- (4) 放射線管理区域内（4号機）
原子炉建屋ギャラリー（使用済燃料プール、原子炉圧力容器および格納容
器蓋等）→格納容器内（主蒸気隔離弁、主蒸気安全弁、格納容器内スプレ
イ管、原子炉再循環ポンプ等）→原子炉隔離冷却系→予熱除去ポンプ→
圧力抑制プール→制御棒駆動水圧系→大物搬入口（水密扉）
- (5) 保全区域（非放射線エリア）
非常用ディーゼル発電機→配管サポート（耐震補強）
- (6) 質疑応答

3. 所感

新規制基準への適合のために、まずは津波を受けないように防波壁を高くする対応を取り、万が一越水した場合でも水密扉で津波の原子炉内への侵入を防ぐ対応をされているのがわかった。また、外部電源が失われた福島第一原発事故を受け、非常用発電機を2重3重に配置して、仮に津波を受けたとしても、高台の非常用発電機で電力を確保するなどの対応ができていることを確認した。

4号機、3号機についてはすでに新規性基準への適合性審査を原子力規制委員会に申請済みではあるが、審査は長期に渡っており、審査合格が出るかはまだ見通せていない。

安全性向上への対応は継続して行われており、現在の想定のおける対応はしっかり行われていることは確認できた。

